

ボランティアネットワーク通信

2020 年版

NPO 法人

ボランティアネットワーク

茨城県古河市水海三〇一九

Tel 0280-23-1441

090-3097-4640

Fax 0280-23-1446

このたびの七月豪雨により被害を被られた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

東日本大震災発生から九年、熊本地震から四年が経過しました。これまでの自然災害において被災され、仮設住宅や災害公営住宅で避難生活之余儀なくされておられる皆様に、お見舞い申し上げます。

この度の新型コロナウイルスに罹患された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、大切な方を亡くされた方々へ哀悼の意を表します。

以前、ある新聞のコラムには、「人間にはその邪悪なウイルスに対抗できる免疫が確かに備わっている。邪悪なウイルスとは新型コロナウイルスではない。差別や偏見というウイルスである」とありました。

私たちはまず専門家が言う予防策をちゃんと取り、必要以上に恐れないことが大事です。そしてウイルスが引き起こす偏見や差別的言動等の感染にも気を付けなければなりませんと思います。

NPO 法人ボランティアネットワークは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、活動を自粛しております。

七月豪雨により被害を被られた皆様に、

心よりお見舞い申し上げます。

この状況が収束致しましたら活動を再開いたします。
このような状況の中、出来る限りの活動を行っております。支援金のお願いや、またこの度の九州豪雨により被災された皆様へ支援物資を、お送り致しました。



今後ともご支援ご協力くだされいますよう宜しくお願い申し上げます。

活動報告 (熊本)

「忘災（防災）フェスタ」にて

二〇一六年四月十三日
(土)、宇城市豊野町の公民館で開催された

「忘災（防災）フェスタ——あれから3年 忘れない・繋がる・続ける——」に、ラーメンの炊き出しに行ってきました。

二〇一六年に発生し、各地に甚大な被害をもたらした熊本地震。現地の豊野町も、当時は最大震度6弱の揺れを観測していました。

今回は、震災から3年が経っており、倒壊した建物群は再建がされているなど物理的復興は進んでいるように感じました。

このフェスタは、もう一方の精神的（心理的）な面を支援していきたいという願いのもとに開催されていました。それは、互いに交流ができ、話し合い、笑い合い、共に歩んでいることを実感できる場を作ることです。

フェスタは、まず各宗派合同での追悼法要から始まり、



頭巾作りなどのワークショップや焼き鳥やハンバーガーなどの炊き出しが行われました。ラーメンの炊き出しをする中で、多くの方から「熊本まで来たんだから、馬刺しは食べたか？」と聞かれました。僕は「昨日食べました！ おいしかった。だから、元気にラーメン作ります……しようゆ味ですが」と答え、冗談を交えながらお互いに笑い合えるひと時もありました。

子供たちも笑顔で「おいしい」と言ってくれながら食べてくれたのも印象的でした。

3年という年月のなかで心身ともに徐々に落ち着き、は取り戻しつつ、逆に被災の傷は心の奥にしまいこんでいる方々もいるように感じました。

フェスタのサブテーマ「忘れない・繋がる・続ける」のとおり、互いに支え合える関係や不安などを吐露できる信頼関係は一朝一夕には難しく、継続した支援活動の大切さを深く感じました。



活動報告 (長野市豊野区)

千曲川流域の活動報告

二〇一九年十月、ラグビーワールドカップが開催さ

ていた日本では、桜のカンタベリーユニホームに身を包んだ応援団が街に溢れ、ラグビー一色の盛り上がりを見せていました。その最中に、この災害は起きたのです。

大型の台風19号が記録的大雨をもたらし、長野市では千曲川、福島県では阿武隈川、栃木県では秋山川の堤防が決壊し、全国で百人近くが死亡という大惨事となりました。

千曲川の氾濫では、約70メートルにわたって堤防が決壊し、住宅地などに広範囲にわたって水が押し寄せ、長野市にある新幹線車両セン

ターが水没し、新幹線も膨大な被害に遭いました。

その後の復旧活動により泥水と災害ゴミの除去で疲労困憊となっている被災地の人達の様子を知った我々は、キッチンカーを走らせ、長野市豊野区に向かいました。

地元のボランティアの方々と協力して「あったか食堂」と称し、ラーメンの炊き出し二百食を無料で食べて頂きました。



多くの人は二階に寝泊まりをしながら、床上浸水をした家の片づけをしていました。家を直すにも地元の業者では手が足りず、多額の費用もかかります。二次災害の恐怖もあり、そこに住み続けるかも決めかね、未来が暗澹としている人たちが。

災害に遭い、気を張り詰めて片付け作業をしているので体の疲れは忘れていけるけれど、心がストレスで疲れ切ってしまうと言います。



そんな中の炊き出し、「おいしい」「ありがたい」と笑顔を見せてくれました。子供から年配の方、育ち盛りの中学生は「チャーシュー多めの大盛り」と注文して笑顔がこぼれます。

「あたたかい食べ物」を通して、疲れた心に少しでも力をつけてほしい、困った人や家族を亡くした人に声をかけてあげたい、そんな想いで始まったボランティアですが、自分たちこそ、「笑顔をもらえてありがとう」と、心に染みます。

また、今年も台風は近づいてきます。自分だけは大丈夫と思いきまず、「今までに経験したことのない記録的な」非常事態にいつも備えてください。

活動報告（宮城県）

石巻市の現状と活動状況

宮城県石巻市において、私たちは二カ所ずつ、二回の支援活動を行いました。

ふなこし
船越集会所

二〇一九年十月二日

船越集会所

一子団地西町集会所

二〇二〇年一月二十二日

水浜集会所

雄勝中央集会所

いずれも復興住宅の中にある集会所であり、現地の方々の活動を私たちがサポートするという形で行われました。



石巻市雄勝町船越の、船越復興住宅内の集会所です。まずは主催者あいさつ。



私たちはあくまでもサポート役。復興住宅の方々の自主的な交流会を支援します。

普段、このような会に出てこれない方も参加し、集会所は大きな笑顔に包まれました。

ふたごだんち
一子団地

西町集会所

翌日は、道の駅「上品の郷」近郊に広がる、一子団地復興住宅が会場です。

広い団地のため、集会所もいくつかあり、その中の一つ・西町集会所が、今回の会場となりました。

他の集会所のように、キッチンカーを集会所厨房と隣接させ、効率よく調理作業を進めます。

仮設住宅とは違い、調理設備が非常に充実しているため、状況によってはキッチンカーを使うことなく、すべて集会所の設備で調理することもあります。

その分、住宅の方々が主体となって活動できるので、サポートに徹したい私たちとしてもありがたいことです。



十月に入り、涼しさが一層肌を刺すようになった石巻市。焼きたての餃子と熱々のラーメン、そして語り合う人々の笑顔は、なによりも集会所を温かくしてくれました。



みずはま 水浜集会所

翌年の一月に訪れたのは、石巻市雄勝町水浜の、水浜復興住宅内の集会所です。ここは最初から活動を続けさせていただいている場所です。

久しぶりの水浜地区は、道路・港湾設備が整備されていました。



会話の中の一言が、心にしみました。

「こういう、みんなで食事をする場がとてみたいせつだよねえ…」

避難所の際はプライバシーなんて言ってられなかった。隣同士付き合わなくてはならない。

仮設住宅での生活は、壁一枚で隣の声がきこえた。

最初は気になってたけど、しばらくたつと声が聞こえることがなんとなく安心したよね。

駐車場も共同だから、しばらく居なかったりすると「どうしたのかなあ」て気になったりする。

でも復興住宅になると、仮設住宅とは違って別々の住宅だから、孤立したり、ひきこもりになる人が増えてしまう。

だからこそ、こういう交流会がこれから益々必要になる」

南三陸 さんさん商店街

翌日、空いた時間を利用して、南三陸の「南三陸さんさん商店街」へ行ってまいりました。



震災当時、津波で大きな被害を受けた南三陸町も、復興が進み、道路・岸壁はきれいに整備されていました。

また防災センター周辺は、「南三陸町震災復興祈念公園」として再整備が進められていました。

まさに「これから」という息吹を感じました。

おがつちゅうおう 雄勝中央集会所

翌日の夜は「雄勝中央復興住宅」。昨年お邪魔した際は集会所が建設されていませんでしたが、今回は新築の集会所での活動となりました。



大勢の方々があつまり、隣接している駐在所の警察官も同席。互いに近況を語り合い、とても和やかな会食となりました。

防災・防犯の基礎は、人々の相互協力だと言われていますが、雄勝中央では、それが確かに根付いているようです。

NPO法人 災害ボランティアネット 収支報告書

(期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日)

前年度繰越金	¥3,761,278	
収入総額	1,996,920	
支出総額	1,610,776	
前年度固定資産除却損分*	110,500	
差引残高	4,036,922	次年度へ繰越

(*昨年度の収支決算に、固定資産除去損分を加算記入し忘れていました。お詫びして訂正いたします)

正会員・賛助会員・寄付者 (敬称略・順不同)

(期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日)

Studio-Pop hair 檜山達也、秋津 秀樹、葦原 由美子、阿弥陀寺(長須)、荒川 保、飯貝 宗淳、飯田 千恵子、飯塚 久江、池田 幸裕、居酒屋 鶴、石川 真樹、一乗寺、伊藤 賢、今泉 温資、岩城 芳文、因宗寺 柏女 有教、梅溪 得文、雲国寺、江森 信市、円鏡寺、円光寺、大塚 展彦、柿沼 正男、加藤 誠、檉 あゆみ、菊池 弘昭、狐野 やよい、木下 彰子、桑島 かおり、桑原 正信、顕正寺、光照寺、高德寺、光明寺 小林 尚樹、光明寺 三浦 大悟、古賀 美津子、古賀 洋子、小島 森一・真知子、粕一、佐々木 誠信、笹本 伸一、澤田 恵子、宗善寺、正應寺 佐々木 誠正、正恩寺、正覚寺 山吹 照久、勝願寺 井上 証、乗願寺 鈴木 友好、正行寺、浄眞寺 前田 義朗、浄泉寺、浄善寺、正蔵寺、聖徳寺、常福寺 八田 信雄、常福寺 八田 裕生、乗満寺 遠藤 秀賢、白石 久子、真福寺 秦 康昭、新保 トシ子、税理士法人サクセス 桑原 正信、専行寺(平松 正信)、専西寺 青樹 潤哉、(財)全日本仏教会、宗泉寺 担保 立子、存明寺 酒井 義一、諦聴寺、田上 翼、託法寺、多田 依子、(有)谷駒、玉寄 富仁枝、聴法寺、長命寺 井上 雅人、通覚寺、等覚寺 小田 昭彦、東京 報恩寺、東弘寺、徳蔵寺、富山教務所、永藤 松男、中村 由美子、並木会館、西光寺 橋本 唯信、西蓮寺 白山 勝久、延岡 潤照、梅寿 光殊、橋本 コノミ、橋本 はる子、蓮原 耕児、秦 秀人、服部 吉高、東出 睦治、平塚 秀男、深栖 将稔、藤津 裕子、藤場 芳子、淵上 知明、法善寺、堀 秀隆、本誓寺、本多 雅人、増田 せつ子、松野 祐、松本 きみ子、三池 眞弓、水谷 豊、光林 忠明、宮地 修、宮武 真人、妙安寺、妙安寺 樋崎 成俊、明願寺 久保山 善友、明信寺、明超寺、妙徳寺、明福寺、森 仁、梁河 文昌、山中 えりか、山中 なつ、唯信寺、横田 洋、吉田 幸代、吉弘 祐子、了因寺 同朋の会、了因寺 吉岡 康裕、渡辺 ウメ子、渡辺 久美子、

皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。
尚、今後も支援活動を継続していきますので、
引き続きお力添えをよろしくお願い申し上げます

今後の活動について

「災害をこえ、人々のつながりを願う」会として活動を続けてはいますが、やはり災害に苦しむ方々への支援が活動の根幹となっている事実です。



令和二年七月豪雨の被害に際し、熊本県の寺院を御縁として、支援物資を送らせていただきました。

タオル、マスク、清掃用具、消毒用ジェルなどを、五〇〇セット程です。

今秋の台風勢力を見る限り、災害は続けて発生し、それは被災地の人々の体力・気力共に削り続けます。

コロナ禍で、思うような活動ができない状況ですが、人々の、生きる活力を取り戻すためにも、私たちはできるところから、少しずつですが活動していく予定です。

どうぞ皆様のご理解・ご支援ほどを、今後ともよろしくお願い申し上げます。



ご協力をお願い

「NPO 法人 ボランティアネット」は、現在も支援活動を続けており、また活動を支援してくださる、「正会員」「賛助会員」を募集しております。

また、ご寄付も随時受け付けております。

「ゆうちょ銀行」での寄付を希望される方は、ご連絡くだされば「振込用紙」を送付いたします。

「銀行振り込み」の場合は、左記の口座への振り込みをお願いいたします。

みずほ銀行 古河支店 (279)

普通 1253546

口座名:

特定非営利活動法人

災害ボランティアネット

編集後記

今年は「新型コロナウイルス感染症」が猛威を振るい、「コロナ関連の諸問題」は日本中を混乱に陥れた。

「感染症」と「関連問題」は似ているが、全く違う。「感染症」は単なる病気、その原因はウイルスであるが、「関連問題」は社会的な問題であり、その原因は、人の心である。

人の心が生み出す問題を、少しずつでも解決に導くのも、やはり人の心なのであろう。

一日も早い、諸問題の終息を願う。

(文責・大内崇久)